

令和 5 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	20	学 校 名	浜北特別支援学校	記 載 者	鈴木 真一
------	----	-------	----------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	個性を生 かし確か な成長を 感じられ る教育活 動を進め る。	「教育課程の押さえ」を踏まえ、 学校全体の調和を図り、学部間／ 学年間の系統性を実現する教育課 程が編成できたと感じる教員 100% 児童生徒の発達段階を把握し、学 習によって身に付けた力を評価規 準／基準に沿って適切に評価する ことができたと感じる教員 100% 児童生徒が I C T を活用して自ら 学習に取り組むことができたと思 う教員 100%	A	A	・児童生徒それぞれの長所を引 き出そうとする学校体制が分か った。 ・様々な工夫があり、いろいろ 考えていることが分かる。個別 で小から中、高へとつなげてい く指導はよく考えられていて安 心できる。 ・I C T を活用して自ら学習に 取り組むことが他と比べ 80% と少し低い達成状況だったので、積極的に取り組んでいただ きたいと思った。
イ	具体的な 将来像を より明確 にした地 域で生き る力を培 う。	キャリアシートを、学年／学級経 営や個別の教育支援計画の立案と 評価に生かすことができた教員 100% キャリアパスポートで設定した目 標を達成できた児童生徒 100% キャリアパスポートの目標に向か って児童生徒が力をつけたと感じ る保護者 100%	A	A	・将来像を明確に意識するのは 難しく、不安や心配も多い部分 だと思う。特に中学部から高等 部へは未知の部分ばかりなの で、見学や体験の機会がもっと 増えるといいのではないかと思 う。保護者が学校に入る機会も 増えるとよい。
ウ	お互いが 人を大切 にして、 笑顔に満 ち溢れた 学校生活 を実現す る。	相手を意識して自ら笑顔で挨拶が できた児童生徒、教員 100% 重大ないじめ 0 居心地の良い学級／学年／学部を 目指して主体的に取り組んだとい う児童生徒 100% 学校は楽しい、学校に行きたいな ど学校が居場所になっていると答 える児童生徒 100%	A	A	・明るい雰囲気为学校になった ことに気付いたが、これは「相 手を意識して自ら笑顔で～」の 実践によるものであろう。 ・笑顔で挨拶してくれる生徒や 先生方が本当に多く、とても良 い空気感がある。顔を見て声を 掛けてくれる機会が多く、親し みやすく安心した場になると思 う。今後もぜひ続けてほしい。 ・小学部高学年の児童による挨 拶運動は、低学年児童の手本に なるとともに、中学部・高等部

様式第 5 号

					の生徒にもいい刺激となると思う。社会に出たときに必要な基本的素養が日々、醸成されていると感じる。 ・生徒と教師の関係性が通常校に比べ、非常に密であり、いじめの有無も含め、生徒の状況はしっかり把握されていると思われる。突発的偶発的な生徒間の暴力等はあるようなので、心のケアは必要かと思う。
エ	明確で実 際のな危 機管理・ 安全体制 を整備す る。	危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100% 医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故 0 自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% 通学途上の事故 0	A	A	・危機管理の意識が高く、「報・連・相」がすばらしく徹底していると感じる。
オ	地域等と ネットワ ークでつ ながり、 共生社会 の実現を 目指す。	地域等の「人・もの・こと」とつながる新たな取組を実現した学年／学部／分掌 100% 地域ボランティア「けやきの会」との交流再開 双方の成長を促した交流活動ができたと感じる教員、保護者、相手校 100% 保護者、教育、就労、医療、福祉機関とつながり、対応を具体化できたと感じる教員 100%	A	A	・本年度は特に地域とのつながりを強くできたように思う。共生社会の実現のために、特別支援学校が変わるのではなく、特別支援学校が発信元となって「地域社会を変える」くらいの気持ちでよいのではないかな。 ・地域の方々が本当に優しく温かく接してくれる場所に学校があり、子どもたちは幸せだと思う。個人でも団体でももっと交流の機会が増え、笑顔で何かを一緒に成すことができればそれ以上に望むものはない。 ・児童生徒の作品、作業製品をぜひ、中瀬コミュニティセンターに掲示したいと思う。センターの利用者に浜北特支の子供たちの感性や頑張りを感じてもらいたいと思う。 ・班長の集まりや「区民と先生の集い」で校長先生に学校紹介をしていただいたことは、とても意義のあることであったと感じる。参加者には好評だった。

カ	業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る。	自信と根拠を持って業務に取り組むことができるようになったと感じる教員 100% 所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができたと良かったと感じる教職員 100% 不祥事 0 年間時間外勤務 360 時間以内 100%	A	A ・「自信と根拠の持てる教員」と「本校で働けて良かったと思う教員」の割合が高いことは至って大切なことであり、教職員の自己実現の場所として学校に付与された責任を果たしている。 ・先生方の負担が少しでも軽くなるとよい。 ・定時退勤しても結局、自宅への仕事の持ち帰りでは、先生たちの多忙感の解消にはならず、悩ましい。 ・勤務時間には限りがあるので、学年、学部、学校全体を俯瞰し、慣例的にやっていることや子供のためとして続けていることに関し、外部者の評価を受けて見直す取組は、想定外の気づきが得られるかもしれない。また、保護者に現状説明を行い、業務削減に向けた改善策への理解を得ることも必要になると考える。 ・食事、排泄など各種介助や登下校時の配車調整など、教務以外の仕事に関しては外部スタッフ導入など現場レベルではない教育委員会レベルでの施策が必要ではないか。 ・次回、自宅への仕事持ち込みや、ZOOM などによる自宅での研修等に関する評価項目が必要なのかもしれない。 ・働き方改革が推奨されている中において、教職員の労働環境の整備等が課題である。 ・時間外勤務については、定員管理もあり、職員数が増えられないなら業務の見直し、意識改革しか方法はないかと思う。やらないといけないことを削減は出来ないので大変だと思う。
---	--------------------------------	--	---	--